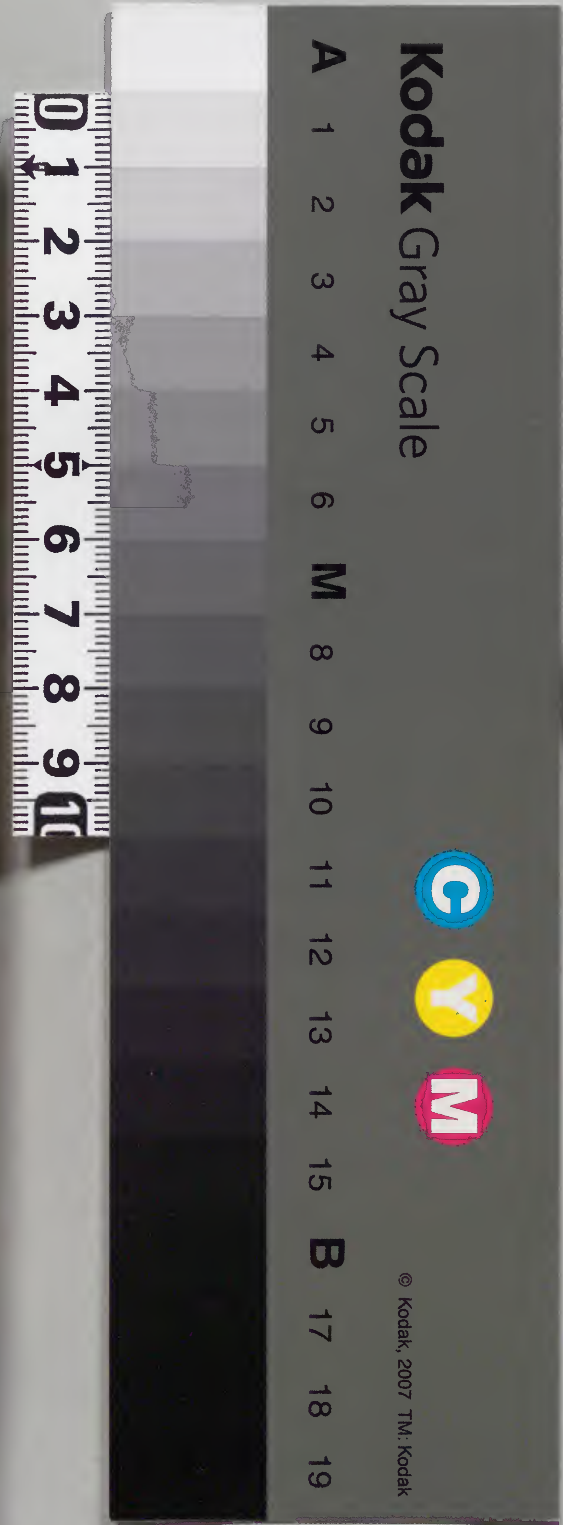


冊架	函號
二五五八七	七〇七

内閣文庫	番號	和 25587
二〇一函	冊數	4 (3)
五四冊架	函號	201 33



綴じ部（喉部分）の文字等が開きが不鮮明な箇所あり

黒澤翁満大人撰

類題採風集 二卷

阿豆麻園藏梓

都の歌多し **採風集** 採風集

わづきのやあし 採風集 四方の

氏年 年月 志 採風集 三三のえ

くおのりーくの 採風集 採風集

三三 採風集 採風集 採風集

敷平も何らぬ山うの街のめま
おのつらすらあ海根の橋
城何さうしてさやの城もさ何さふ
もさうと城ん城うまは家さふ
のこよの城うめささはわらやま

さうさうさうさうの能くさ
まさ西本のあつら城さく傳ふ
中りもせこそあ海高のま
うえああさうのわらけあさ
そのさうさうさうあう能くさ

有りも有りともおぼゆるに
こゝろわつ津形大人の毎の
あつる採田系とつるうと
重も畑方の三極梅枝一方
のらふとらんよのころちぢるを

うさきけそ好めるとおの
らやらのすちのしおしぢら
とささこをと推をうらまへその
名も阿のすちのしぢら
おの礼身の程枝とすぢら

千々々々々上階々々々々々々々々々
大方人の事々々々々々々々々々々々
るるるんんんんんんんんんんんん
切々々々々いんんんんんんんんんん
うんおほおほあまのあまのあまのあま
るるるののののののののののののの
くくくののののののののののののの

安政四年巳正月

中林右衛門

採風集二篇上

春

年
立春

高文
 八重子
 大海
 清海
 為子
 真臣
 恆長
 智融

立春

立春の日のあけは
 春の日のあけは
 春の日のあけは
 春の日のあけは
 春の日のあけは

忠 網
 道 寧
 秀 興
 柳 子
 義 信
 好 古
 足 徳
 知 方

元日
立春

廣 臣
 正 明
 道 寧
 安 恭
 珎
 寛 敬
 氏 古
 長 央
 春 時

禁中
元日

春 時

春の始に... 願ふ所... 春の始に...

ハナハナ... 宗海

元日鶯... 善繼

元日試筆... 英昌

年始... 益雄

歳且... 智融

立春霞... 殖茂

立春風... 宥龍

立春... 友愛

山家... 好教

幽栖... 利雄

海辺... 公満

春の始... 御網

春の始... 日孝

春の始... 重秋

春の始... 為子

初春

つたまははりの侍の我病もまたまゝさきやたし
橋住

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
善苗

まき風よつね松竹もなきひき梅もさきつきの
可景

初春
見鶴

けし玉のこころもさきさきあつたつたさきさき
長翁

おたけの天たけりぬまきまはさきさき
資胤

初春月

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
長央

初春
待花

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
善繼

早春

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
中み子

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
政寛

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
大海

てのふのりけるおととまきまはさきまはさき
安茶

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
佳昌

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
真臣

都早春

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
恆長

春來
鶯返

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
十苗

早春鶯

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
武行

おしげき果かりたりまきまは池の波も人のこころも
餘文子

早春山

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
真信

早春霞

まきまはさきまはさきまはさきまはさき
御綱

早春里 階こけり春の神もまを夜の里ふかきまゝ 長 央

早春川 春風ふ川の初もよけを春を流るる 成 一

早春雪 まゆ船の春の夜ぬきまてふゆふまに 正 信

早春風 春風まよふ春つむすの初もよけを流るる 經 巖

早春鳥 春もよけの初風まよふ山畑の初もよけを流るる 御 網

氷 例 まよふにたれまよふ大や 橋 住

霞知春 さあ娘や 春の初もよけを流るる 餘 文子

若 水 まよふにたれまよふ井つ 清 子

一 巻 初もよけの初風まよふ山畑の初もよけを流るる 政 澄

春風春水 一時来 初もよけの初風まよふ山畑の初もよけを流るる 佳 昌

春 氷 まよふにたれまよふ池の初もよけを流るる 高 文

東風吹 春風まよふ池の初もよけを流るる 祐 賢

春風 解氷 まよふにたれまよふ池の初もよけを流るる 正 明

春 水 まよふにたれまよふ池の初もよけを流るる 重 好

山家 春水 まよふにたれまよふ池の初もよけを流るる 隆 道

春 色 春風まよふ池の初もよけを流るる 斐 茂

春色新 春風まよふ池の初もよけを流るる 殖 茂

春色 春風まよふ池の初もよけを流るる 長 行

浮水 春風まよふ池の初もよけを流るる 長 行

春色新 春風まよふ池の初もよけを流るる 殖 茂

春色 春風まよふ池の初もよけを流るる 長 行

浮水 春風まよふ池の初もよけを流るる 長 行

松竹
春色

新ちりも松のみより真具もよ小春のよきと侍りし 直子

松竹
春色

さう妙のまのしはまきあつらしてさあはるるよきと侍りし 正容

風光
野望

春柳の枝りもさうなる風ふりよの柳のまききぬん 道寧

家
觀春

おしなてそよのちりしちりしちりしちりしちりしちりし 柳子

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 真具

子
日

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 大海

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 政寛

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 清之

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 通徳

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 安貞

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 久隆

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 春時

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 益雄

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 斐茂

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 一雄

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 大海

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 義信

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 真臣

ちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりしちりし 真臣

正朔
子種

七種
子日

震中
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

震
子日

朝霞 朝霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の足摺

山霞 山霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の橋住

嶺上霞 嶺上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の御網

山家霞 山家霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の安茶

野霞 野霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の大海

江霞 江霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の春時

浦霞 浦霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の直幹

海辺霞 海辺霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の足徳

霞遠聲 霞遠聲の霞をうらやましくし中に明かす霞の日暮

橋霞 橋霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の重好

霞隔月 霞隔月の霞をうらやましくし中に明かす霞の助之

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

遠樹 遠樹の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

霞中 霞中の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

松上霞 松上霞の霞をうらやましくし中に明かす霞の寛敬

若菜 楠ふゆえんまぎのたれ... 爲一
重好 行廣 盛次 政寛 資胤 大海 安恭 醜雄

尋常若菜

若菜類

若菜多 雪中 若菜

野若菜

海若菜

義忠 之周 廣瀬子 知春 長央 中子 英昌 八重子 友愛 殖茂

鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 長恒
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 之翰
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 為子
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 真臣
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 捕月
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 治満
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 勝継
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 直子
 鶯のささきくした山田の恒春のひとあかきく
 正明

谷鶯 谷は戸のまきくした山田の恒春のひとあかきく 友愛
 雨中鶯 雨の中はまきくした山田の恒春のひとあかきく 安茶
 雪中鶯 雪の中はまきくした山田の恒春のひとあかきく 直子
 暁鶯 暁の中はまきくした山田の恒春のひとあかきく 政寛
 曙鶯 曙の中はまきくした山田の恒春のひとあかきく 善継
 日 日の光はまきくした山田の恒春のひとあかきく 八重子
 呉井のねくくした山田の恒春のひとあかきく 寛敬
 明ぬくくした山田の恒春のひとあかきく 大海
 御網

夕鷺

夕まはるきあけのうららかにあそぶ鳥の音

遠聞鷺

遠くから聞く鳥の音

鶯有

鶯の音

都鷺

都の鳥の音

海辺鷺

海辺の鳥の音

野外鷺

野外の鳥の音

山家鷺

山家の鳥の音

閑居鷺

閑居の鳥の音

社頭鷺

社頭の鳥の音

窓前鷺

窓前の鳥の音

鶯聲

鶯の音

隔竹

竹の音

竹鷺

竹の鳥の音

柳藏鷺

柳の鳥の音

名所鷺

名所の鳥の音

關路鷺

關路の鳥の音

餘寒

餘寒の鳥の音

布

布の鳥の音

為一

廣臣

真臣

安貞

直子

良紀

御綱

知春

季文

勝圓

忠通

政毅

大海

真意

大海

安茶

真臣

大濂

住洋船の香の衣を冠すも花神宮に香の山 橋 大海

餘寒月

二河川は雪原もさそくそく雪のふり月 長 央

残 雪

雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 長 央

名可

残 雪

雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 盛 次

山 残 雪

うふとふと雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 日 孝

春 雪

雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 安 鼎

のこふとふと雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 柳 子
雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 安 茶

山 春 雪

雪のふりてあまんや城松をばふもものこふ 御 細

梅

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 季 文

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 義 信

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 道 可

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 安 茶

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 橋 住

梅 初 開

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 真 臣

梅 雪

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 氏 古

雪 中 梅

梅のふりてあまんや城松をばふもものこふ 御 網

雨中梅

ちかちか雨のちのつたぐんまきさくやふれり玉も 千 森

霞中梅

よき雲あまのせも雲のちかすくもたふ梅や咲らん 文 満

梅 風

梅の香も風のつてまきまきさくぬへのつをも咲らん ともみ

梅 薫 風

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 氏 古

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 宗 隠

梅 薫 袖

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 大 海

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 重 好

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 長 央

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 為 子

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 道 宗

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 大 海

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 茂 枝

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 一 孝

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 守 年

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 氏 古

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 寛 敬

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 廣 臣

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん 直 子

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

梅 薫 枕

梅の木の葉の生葉も小風吹かかるとたふも咲らん

柳風

風ふふとほしむ花のよけりていふ花のよけりていふ柳 政寛

柳風静

静かなる風は柳の梢を渡る風は静かなる 足穂

柳随風

柳は風にまかされてはたなびく 長夫

水辺柳

水辺の柳は風にまかされてはたなびく 足穂

水辺の柳は風にまかされてはたなびく 大海

水辺の柳は風にまかされてはたなびく 真臣

古柳

古柳は風にまかされてはたなびく 廣瀬子

古柳は風にまかされてはたなびく 大海

古柳は風にまかされてはたなびく 真臣

古柳は風にまかされてはたなびく 真臣

行路柳

行路の柳は風にまかされてはたなびく 一雅

月前柳

月前の柳は風にまかされてはたなびく 足穂

春月

春月の柳は風にまかされてはたなびく 良詮

春月の柳は風にまかされてはたなびく 之翰

春月の柳は風にまかされてはたなびく 氏古

春月の柳は風にまかされてはたなびく 橋住

春月の柳は風にまかされてはたなびく 真臣

春月の柳は風にまかされてはたなびく 足穂

長中月

長中月の柳は風にまかされてはたなびく 足穂

山家
春月

名所
春月

春曉月

若草

草漸青

雨中
春草

海辺
若草

野春艸

春
雨

春月 山家 春月 寛敬

名所 春月 善苗

春曉月 餘文子

若草 道可

草漸青 益雄

雨中 春草 正容

海辺 若草 長央

野春艸 千苗

春 雨 知春

寛敬

宵竟

勝圓

靜滿

廣臣

政茂

政毅

直幹

志行子

寛敬

春時

樹陰
春雨

市中
春雨

山春雨

春時

寛敬

春時

関居

春雨

ふし世まほしき山も若くはの春もなれぬ本りの春の

通徳

田家

春雨

まじりて春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

好古

帰雁

又もこも秋のしれぬ

又もこも秋のしれぬをの情もゆく春の雨の

大海

中宮

又もこも秋のしれぬ

中宮の春もあまの春もゆく春の雨の

道寧

オモ

又もこも秋のしれぬ

オモの春もあまの春もゆく春の雨の

橋住

丁の

又もこも秋のしれぬ

丁の春もあまの春もゆく春の雨の

橋住

遠帰雁

いづれも春の雨の

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

正容

雲関

深夜

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

高文

深夜

帰雁

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

大海

海上

旅宿

帰雁

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

足徳

花前

帰雁

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

宗徳

春

野

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

真臣

野

春

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

治満

野

春

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

恒長

雑

子

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

矩俊

雑

子

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

御網

雑

子

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

餘文子

雑

子

いづれも春の雨の情も春の外も春もさきまの雨のや

嘉吉

呼子鳥

以のりよ小雀呼子鳥... 氏古

雲雀

世深きうの鳥... 道久

野雲雀

此のよの雀... 大 海

澤辺

澤のよの雀... 子 苗

夕雲雀

夕のよの雀... 日 孝

燕

行あつた雀... 大 海

野 遊

野のよの雀... 八重子

遊 絲

遊のよの雀... 善 繼

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 吉 足

野 遊

野のよの雀... 安 茶

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

野 遊

野のよの雀... 真 臣

草

ついでに草の御細
御細
英昌

田上草

田上草の御細
御細
醜雄

草花

草花の御細
御細
御細

上巳

上巳の御細
史乘
長央

曲水宴

曲水宴の御細
真臣
道寧

汐干

汐干の御細
智融

櫻

櫻の御細
善繼
春雄

山櫻

山櫻の御細
為子
隆剛

花

花の御細
之幹
吉足

安興

政寛
矩俊
季文

寛敬

春時

良詮

大海

橋住

安茶

貞信

御網

知春

足穂

橋住

久豊

保古

古

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

花未開

待山花

待花

裁花

初花

花開

人來

尋花

遠尋

山花

花未遍

盛花

山花盛

所々
花盛

約ひきそまをりつゝふふ川うきからつゝまのむかへらねん
まよひのまよひの身をもよほすも人信のゆゑにやまをまん
道寧

風静
花芳

まのあふ木小風のまよひをさうりのまのまよひのまよひ
直子

明花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
氏古

曙花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
廣瀬子

夕花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
正容

夜花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
道寧

月前花

月あふりつゝまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
喜貫

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
直幹

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
英昌

花間月

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
政茂

霞中花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
鏡善

雨中花

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
清速

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
醜雄

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
大海

まのまよひのまよひをさうりのまのまよひのまよひ
八重子

雨後花

白く花うつむく梢の上お花をそりし橋は 為子

閑居花

いそぎなく山の花をみりしにわたりしお花は 守年

花依得密

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 湛然

花友

けしきをいひつむ花はうらみなく花におおむらん 真盛

花下會友

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 御細

花下送日

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 正宏

花下言志

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 御細

花下忘帰

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 氏古

見花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 大海

朝見花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 正明

静見花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 氏古

花雲

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 榮女

馬上思花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 醜雄

都花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 安茶

林中花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 之幹

社頭花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 為子

古寺花

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ 大海

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

寛敬

あつたはらけのやけははらけの山に人も月もきりあ

古郷花 枯草のよき草のいづれ人老てもむせきたす
 塩屋花 夕夕よやくしりて水のうらふますなぬ海苔のしほ梅代
 海辺花 海士のききもあたらぬの神もも破山橋よ小舟さす
 湊花 陸にやとこころうとて雲心の下小風竹と舟もそと
 心在 山花 山花の心は海をそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 山花 消のこころは梅のやまをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 谷川の水のほろのさつるをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 梅波山さくし小えれりり山山山原の功をそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 遠山花 こそとてこのころは梅のやまをそとて雲心の下小風竹と舟もそと

文 満 御 網 眞 信 定 昌 居 眞 政 寛 大 海 眞 臣 御 網 為 一

深山花 秋のいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 山家花 山甲のいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 龍辺花 山原のいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 水辺花 さとて雲心の下小風竹と舟もそと
 川辺花 川水さくし小えれりり山山山原の功をそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 舟中花 舟中もさくし小えれりり山山山原の功をそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 庭花 心まわりのいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 菴花 志まわりのいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと
 野外花 こころのいそぎをそとて雲心の下小風竹と舟もそと

足 穂 資 胤 日 孝 大 海 橋 住 鑄 子 眞 意 清 成 良 詮 足 穂

近花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 直子

行路花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 茂枝

陌頭花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 醜雄

關花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 道寧

松関花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 春時

竹関花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる さく子

名所花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 為子

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 益雄

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 梅孫

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 御網

志賀 山越 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 貞信

折花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 保古

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 氏古

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 善継

風前花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 廣臣

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 道寧

ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 安茶

惜花 ちかき花の名 梅の咲く時 ありとも ちかき花をよめる 知春

惜落花

そののこれむをわとにほ里の蝶よりかひとん人の病 濃紫女

落花

をり外をともほさうさうさう様バさうふあを存存をさうに 八重子

落花

花味のい風ふあれて木のすかおをむさうりそね様バ 茂枝

落花

あきさそを柳とそく持をきて種うかりさうさうさうバ 長央

落花

ゆらゆら様をさうもにさうたれはさうを降とまれれバ 真臣

落花

あうさうさう人たすかおとさうの西すむの秘をたさうさう 一雄

落花

いさささうさうさうさうたて曉の種うさうさうさうさう 知春

落花

さむさう様をさうさうさうさうの本のさう様をさうさう 安恭

落花

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 忠綱

落花

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 道寧

山落花

山麓の板井の屋より種をさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

満山 咲いてさうさうの様にさうさうさうさうさうさう 政寛

落花

客掃 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 安貞

落花

大井川おおさうさうさうさうさうさうさうさうさう 一孝

落花

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 八重子

落花

所はし山の花をさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

よれさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

浦島舟をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

あむさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

落花

こはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう 寛敬

たのむにわらふ故あはれそて苗代は秘めしなきよりの小山田

去津の雲をよみよふりて草代は山田の山よとねむきま 真臣

けしき持たたふを苗代は秘めしなきよりの小山田 御網

小山田のたけくろ水を風こめて産むはまらむとまふまを

雨後
苗代

白くれてはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 若けり

蛙
あふふふを山田はく思思の山下小山田よりつれづれ 長央

山田のたけくろ水もたけくろ水も井田の怪のまをのま 勝圓

夜 蛙
うらまの雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 忠親

雨中 蛙
極まてくろくまらぬはまらむとまふまをのまをを 大海

蝶
うらまの雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 道可

中位りまをのまをれあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 長央

花上
蝶上 中位りまをのまをれあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 真臣

菜花
又もくろくまらぬはまらむとまふまをのまをを 真臣

杜若
一本のたけくろ水もたけくろ水も井田の怪のまをのまをを 日孝

躑躅
まらぬはまらむとまふまをのまをを 御網

山吹
山吹の雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 大潔

躑躅 紅
まらぬはまらむとまふまをのまをを 為子

山吹
山吹の雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 長央

山吹
山吹の雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 餘文子

山吹
山吹の雲も水もあはれえねももれあはれはくもくろくまらぬはまらむとまふまを 長央

行路

山吹のさくらをうらやまふて花をばやし山池の中を 御 細

山路

松たけもむらさき色に歩りたて足跡のゆきまきのま 子 森

山居

むらさき色に花をばやし山吹の催きんばやし 安 真

川山吹

うらやまふて花をばやし山吹の催きんばやし 志 本 子

折山吹

山吹をばやし花をばやし山吹の催きんばやし 真 臣

蕨

谷のゆきも花をばやし山吹の催きんばやし 道 寧

谷 蕨

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 守 年

岡 蕨

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 寛 敬

行路

早蕨のさくらをうらやまふて花をばやし山吹の催きんばやし 橋 住

早蕨

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 足 穂

椿

山田のさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 御 細

せんさきの花のそらめく花をばやし

花をばやし山吹の催きんばやし 清 子

春 曙

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 寛 敬

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 春 時

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 武 行

山春曙

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 直 子

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 恆 長

海辺

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 廣 臣

春 曙

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし 善 繼

春 眠

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし

不 覚 曉

山人もさくら色に花をばやし山吹の催きんばやし

春日 かりし春の寒りに夢のうもをいと共思ひきりぬ 寛敬

春朝 おはるけりよ春の朝のうもをいと共思ひきりぬ 氏古

山家 春夕 けしきもよき春の夕のうもをいと共思ひきりぬ 廣臣

春夜 春の夜の静けさのうもをいと共思ひきりぬ 寛敬

春夢 夢をみる春のうもをいと共思ひきりぬ 一雄

春 彈琴 春のうもをいと共思ひきりぬ 藝海

春眺望 春のうもをいと共思ひきりぬ 公中

水郷 春望 春のうもをいと共思ひきりぬ 政毅

春興 春のうもをいと共思ひきりぬ 長央

春浦 春のうもをいと共思ひきりぬ 資休

春山家 春のうもをいと共思ひきりぬ 善繼

春鳥 春のうもをいと共思ひきりぬ 友愛

春虫 春のうもをいと共思ひきりぬ 大海

春田 春のうもをいと共思ひきりぬ 善繼

春海 春のうもをいと共思ひきりぬ 盛次

春河 春のうもをいと共思ひきりぬ 長容

春鐘 春のうもをいと共思ひきりぬ 嘉吉

春人事 春のうもをいと共思ひきりぬ 長央

藤 春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

春のうもをいと共思ひきりぬ 真臣

松上藤 山始のこ降りる糸の葉のこ織あやしの夜辰 春時 幸安

松上藤

松と夜ふそよもわさうて老ぬきくお葉のこまほん 藝海

雨中藤

さよひる雨一そけい夜のむおまうり人もこき一哉 為子

名所藤

名所たるたけのこくゆく葉の糸の松よこぬる夜波 藝海

暮春藤

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

暮春

山吹もかりゆくもてあけの糸とすもりもたけのこわゆ 之翰

ゆく葉は枝はほほゆるらん名所ののいや夜中さる さゝふ

おもしろくゆく身におもひ入てまよゆく葉のをりせり 善繼

あしやもかりしをわはほゆるけはの葉もたけのこわゆ 千村

暮春

ふきまたたけのそくゆき葉をきてゆく夜波とまよきり 寛敬

あしやもかりしをわはほゆるけはの葉もたけのこわゆ たぬ子

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

ゆきまたたけはゆきもさきてゆく葉の葉をこまきり 千苗

暮春

三月盡 治満

暮春

三月盡 治満

暮春

三月盡 治満

暮春

三月盡 治満

暮春

三月盡 治満

春の
名残

活生すつら日入るも心に春の心残り

春の小のつらきおとを思ひたるまも春入り入おのうらね 廣臣

心なりのこころも春も残るにけりんを思ひたるまも春入り入おのうらね 安茶

心なりのこころも春も残るにけりんを思ひたるまも春入り入おのうらね 中村 八重子

心なりのこころも春も残るにけりんを思ひたるまも春入り入おのうらね 大海

集

首復

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 大海

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 道寧

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 安春

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 真臣

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 千苗

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 勝圓

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 長央

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 氏古

春の心残りも思ひたるまも春入り入おのうらね 季文

首夏風

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 季文

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 氏古

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 長央

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 勝圓

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 千苗

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 真臣

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 安春

夏風の心残りも思ひたるまも夏入り入おのうらね 道寧

後うろちをよるるあり 襟うろちた風のしゆきり 宥龍

首復山 けつととをあひひ せき山のまゆまみまきくまきけり 長央

深山 時をまきくかきまのまや せきあへり 大なるのやゆ 寛敬

首復藤 昔の藤のよきまきくは 向の藤のゆり けし 益雄

復の紫 けしけの園ふけのふけあり けしけのふけあり 高文

更衣 けしけのふけあり けしけのふけあり 真臣

朝更衣 けしけのふけあり けしけのふけあり 大海

更衣 けしけのふけあり けしけのふけあり 長央

惜春 けしけのふけあり けしけのふけあり 善繼

貴賤 けしけのふけあり けしけのふけあり 長央

御網

残花 けしけのふけあり けしけのふけあり 梅孫

中残花 けしけのふけあり けしけのふけあり 茂枝

春後 けしけのふけあり けしけのふけあり 長央

思花 けしけのふけあり けしけのふけあり 足穂

遅櫻 けしけのふけあり けしけのふけあり 橋住

残鶯 けしけのふけあり けしけのふけあり 正容

善繼

政澄

寛敬

新樹

新樹
結葉

真臣

新樹風

長央

兩中
新樹

大海

新樹
坊月

助之

庭新樹

鏡善

閑居
新樹

殖茂

山新樹

吉足

新樹

良詮

新樹

英丈

筑波山
新樹

正容

卯花

幸安

安茶

安門

經叢

梅孫

御網

卯のむねをたけりかきせりての月のひかりをたけり

朝卯花

春のほろろ雪ははらへていづれも花をよもほけの

好教

夜卯花

りまるとも花をよもほけのほの垣花つきの山里の月

智歎

月前

卯花

いほのふたり花をよもほけのほの月をよも

氏古

卯花
如月

卯のちのり花をよもほけの月の桂の枝をよも

善継

杜卯花

かこつり花をよもほけの月の桂の枝をよも

真臣

卯花
新樹

いほのふたり花をよもほけの月の桂の枝をよも

高文

行路

卯花

さる花のち花をよもほけの月の桂の枝をよも

武行

里卯花

さる花のち花をよもほけの月の桂の枝をよも

嘉吉

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

為子

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

行廣

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

寛敬

加茂祭

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

氏古

葵

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

道寧

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

御細

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

恒長

葵露

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

どみ子

卯月の花をよもほけの月の桂の枝をよも

牡丹花下眠猫有心舞舞蝶

新行

この山に... 安茶

安茶 氏古

新行

村在... 一雅

一雅

竹

竹の... 益雄

益雄

... 廣瀬子

廣瀬子

... 政寛

政寛

... 重知

重知

... 為一

為一

... 長恒

長恒

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

矩俊

真臣

醜雄

御網

氏古

とみ子

安茶

大海

紹憲

待郭公

重好
柳子
橋住
誠之
為子
大海
知春
氏古

夜待郭公

對月持郭公

時鳥不鳴

人傳時鳥

初時鳥

初開郭公

郭公一聲

寢覺郭公

曉時鳥

保信
宥龍
道寧
安恭
資胤
足總
日孝
楯月

みりさのりめきつて
林のまはりのせいのわづらひのあはれは
まきののちよりの甲のそとふたけのまきのわづらひは
まきののちよりの甲のそとふたけのまきのわづらひは
まきののちよりの甲のそとふたけのまきのわづらひは

夢時鳥

やみよき夢の時鳥 夢をみる人 夢をみる人 夢をみる人

足穂

朝時鳥

あけぼの鳥 朝の鳥 朝の鳥 朝の鳥

英昌

月前時鳥

つきまへ鳥 月の前 月の前 月の前

千苗

時鳥

とき鳥 時の鳥 時の鳥 時の鳥

助之

時鳥遍

とき鳥遍 時の鳥 遍 遍 遍

大海

雲外時鳥

うみそと 雲の外 雲の外 雲の外

足穂

樹時鳥

き 木の鳥 木の鳥 木の鳥

直幹

雨後郭公

あめご 雨の後 雨の後 雨の後

経巖

河辺時鳥

かたがは 河の辺 河の辺 河の辺

正方

森中時鳥

もりなか 森の中 森の中 森の中

組子

浦時鳥

うら 浦の鳥 浦の鳥 浦の鳥

大海

名所時鳥

なしょ 名所の鳥 名所の鳥 名所の鳥

橋住

関時鳥

せき 関の鳥 関の鳥 関の鳥

久雄

旅宿時鳥

りき 旅の宿 旅の宿 旅の宿

氏古

関中時鳥

せきちゅう 関の中 関の中 関の中

行廣

山寺時鳥

やまてら 山の寺 山の寺 山の寺

長央

菅蒲

かやぶ 菅の蒲 菅の蒲 菅の蒲

善繼

...

...

大海

沼菖蒲

このしめふかあふの風もあふんそふあめあふあふあふあふあ

真具

あめあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

氏古

菅菖蒲

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

省龍

五月五日

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

真臣

四月

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

大海

菖蒲

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

自信

橋

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

通徳

禁中橋

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

真臣

閑庭橋

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

橋住

古郷橋

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

御細

早苗

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

大海

急早苗

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

秋村

朝早苗

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

宗隱

夕早苗

あふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふんそふあふん

長央

雨中
早苗

五月の雨は青けぬよきものなるこの雨は海

安貞

山畦
早苗

五月の雨は山を潤すよきものなるこの雨は山

橋住

海
早苗

五月の雨は海を潤すよきものなるこの雨は海

八重子

名所
早苗

五月の雨は名所を潤すよきものなるこの雨は名所

柳子

五月雨

五月の雨は川を潤すよきものなるこの雨は川

為子

五月の雨は橋を潤すよきものなるこの雨は橋

高文

五月の雨は醜を潤すよきものなるこの雨は醜

醜雄

五月の雨は雄を潤すよきものなるこの雨は雄

大海

連日
五月雨

五月の雨は連日なるよきものなるこの雨は連日

清成

五月雨

五月の雨は旅宿を潤すよきものなるこの雨は旅宿

中み子

旅宿
五月雨

五月の雨は旅宿を潤すよきものなるこの雨は旅宿

大海

五月の雨は山を潤すよきものなるこの雨は山

真臣

山家
五月雨

五月の雨は山を潤すよきものなるこの雨は山

廣臣

海辺
五月雨

五月の雨は海辺を潤すよきものなるこの雨は海辺

恒長

漁村
五月雨

五月の雨は漁村を潤すよきものなるこの雨は漁村

寛敬

閏月
五月雨

五月の雨は閏月を潤すよきものなるこの雨は閏月

氏古

水鷄

五月の雨は水鷄を潤すよきものなるこの雨は水鷄

安恭

寛敬
 久隆
 真臣
 善苗
 氏古
 助之
 寛敬
 御綱
 大海

夜水鶏

月前
水鶏

水鶏
何方

山家
水鶏

雨中
水鶏

樗

桐花

聖妻

高文
 真臣
 醜雄
 安茶
 良詮
 為子
 長容
 一孝
 寛敬
 静満

籬聖妻

月前
聖妻

百合

紫陽花

澤瀉

復夜

复夜
明易

明易の月

短夜

醜雄

复月

大海

夕月の影を風はさきかきつらぬく海はあつちのまき井
大 海
庭の雨のせき度うははあまのりい月にはあまのりい海は
たをん子
いりあつちのまき井はあまのりい月にはあまのりい海は
とみ子
結んぬ松井のりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
寛 敬
あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
紹 憲
あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
正 容
あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
真 臣
あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
真 信

槐の木の葉の影を風はさきかきつらぬく海はあつちのまき井
醜 雄

いりあつちのまき井はあまのりい月にはあまのりい海は
惠 悒

あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
廣 臣

短夜月

橋 住

月色涼

御 細

雨後
复月

安 興

あまのりい月にはあまのりい海はあつちのまき井
日 芽

樹蔭
复月

湛 然

閑居
复月

醜 雄

橋复月

直 幹

河復月

石川の月夜に照らする月

安興

山家

山の家を住むる人の月夜

嘉吉

浦復月

浦の月夜に照らする月

御綱

照射

照らする月夜

大海

連歩

歩むる月夜

為子

鵜河

鵜の河に照らする月

大海

燕射

燕の河に照らする月

政寛

曉鴉河

曉の鴉の河に照らする月

真盛

點

點の河に照らする月

為子

復草

復草の河に照らする月

御綱

庭

庭の河に照らする月

雅貫

庭

庭の河に照らする月

善繼

水辺

水辺の河に照らする月

一雅

水

水の河に照らする月

足穂

風前

風前の河に照らする月

橋住

復中

復中の河に照らする月

橋住

野復押

こころしき梅のつぼみよこのはなをまよとる給の哉

大海

山路

中々たるふしをいふ中々のつとめをいふ

高文

复草花

相をよまふこのあはれをいふ

大海

复花

たもつれの秋をいふ

廣臣

夕顔

あやうき夕顔のつぼみよ

真臣

疎家

夕顔のつぼみよ

足穂

蓮

あやうき蓮のつぼみよ

高文

池蓮

あやうき池蓮のつぼみよ

盛次

會露

あやうき會露のつぼみよ

經巖

螢

あやうき螢のつぼみよ

重知

定安

あやうき定安のつぼみよ

大海

道可

あやうき道可のつぼみよ

義信

長容

あやうき長容のつぼみよ

正明

御細

あやうき御細のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

大

あやうき大のつぼみよ

海

英昌

あやうき英昌のつぼみよ

大

海

あやうき海のつぼみよ

英昌

螢火 透簾

玉簾下りてうらも涼しきあのをたし影きて星飛影之周

螢火 照路

風ゆくゆく影のやゆのまきうけにゆく涼しく飛影は正容
まきうけをこの光景にまかれてゆくその光景に影がえ
影まきうけの川への影をそと照り母のけりりくらましん

螢火 似灯

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

雨中螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

小扇 撲螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠

草間螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

水上螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

川 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

澤 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

江 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

瀧 辺 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

海 辺 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

旅 中 螢

あつたせにゆくゆくまきうけのけりり火の影をうすく星籠
影まきうけのけりり火の影をうすく星籠

古郷虫

ナラの昔虫を今もかきぬのたふさや昔もかきぬ

大海

蟬

古のこりきし蟬のこきりかきけのこりきり

政寛

林頭蟬

あか蟬のまきのまきの板を相りて清きまきの底

知方

樹蔭蟬

まきまきを相り相りまきまき風くこりまき蟬のまきまき

氏古

山路蟬

まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

守年

蚊遣火

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

大海

林下

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

春時

隣家

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

直子

閑居

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

廣瀬子

蚊遣火

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

政寛

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

久雄

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

清之

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

惠協

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

御網

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

真信

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

勝繼

夕立

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

忠通

早週

あきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

早週

夕立の音は山田の山に響く

野路 夕立 廣 臣
山田の山に響く夕立の音は
橋 住

遠夕立 夕立の音は山田の山に響く
長 央

都夕立 夕立の音は山田の山に響く
行 廣

旅夕立 夕立の音は山田の山に響く
重 備

田家 夕立 夕立の音は山田の山に響く
千 森

島夕立 夕立の音は山田の山に響く
竟 敬

泉 夕立の音は山田の山に響く
氏 古

松下泉 夕立の音は山田の山に響く
益 雄

扇 夕立の音は山田の山に響く
可 景

氷 室 夕立の音は山田の山に響く
良 澄

山氷室 夕立の音は山田の山に響く
真 臣

納 涼 夕立の音は山田の山に響く
八 重子

夕立の音は山田の山に響く
鏡 善

夕立の音は山田の山に響く
春 時

夕立の音は山田の山に響く
定 安

東の川を渡る風は...

友愛

秀興

真信

濱子

大海

夕納涼

家々

自他

納涼

橋上

松下

納涼

文滿

真具

善繼

真隆

廣瀬子

秀穂

大海

久隆

真臣

高文

柳子

醜雄

復聲

大海

苦熱

蠶

山邊

避暑

復衣 衣はもやうはくまをなまらうきりてきりかきりたり 橋住

復眺望 早きうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 正容

復河 水ついのほけぬみゆきをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 八里子

復井 清きももかきりたりをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 道久

復山 山に雲をうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 千苗

復山家 せき入りの谷のほけぬみゆきをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 清速

復鳥 短きはりにたのまをなまらうきりてきりかきりたり 大海

復狩 けやうのふたきりてきりかきりたり 大海

復滝 ながきももかきりたりをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 恒長

復風 けうのまをなまらうきりてきりかきりたり 一孝

復夢 ながきももかきりたりをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 大海

復 山に雲をうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 清成

復 ながきももかきりたりをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 廣瀬子

復 けやうのふたきりてきりかきりたり 恒長

復木 梅の花をうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 隆道

復穀 けやうのふたきりてきりかきりたり 高文

復日 ながきももかきりたりをうらまはくまをなまらうきりてきりかきりたり 日孝

復朝 けやうのふたきりてきりかきりたり 大海

復夕 新夕の夕かたはま月もあることありは清き夕の夕
復神樂 六人の夕やふらの夕も秋夕の夕も風の夕も 春時
復人事 夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 善繼

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 資胤

野
秋近

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 文満

復夜 夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 清速

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 足穂

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 真具

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 嘉吉

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 真臣

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 廣臣

待秋 夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 鏡善

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 好古

晚復螢 夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 氏古

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も 利子

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も

夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も夕の夕も

秋

ふと秋のまつこ秋をよるや

立秋

いづれ秋の末のいづれの秋の初も秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

立秋天

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

立秋風

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

海辺
立秋

みづききせし秋のまつこ

初秋

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

初秋月

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

初秋風

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

初秋渡

秋のまつこ秋のまつこ秋のまつこ

寛敬

恆長

清海

安春

道寧

氏古

義忠

重喜

好古

直子

勝圓

宥龍

真臣

清子

真具

橋住

初秋虫

初秋の虫は 日孝

關路

關路の早秋 保古

海

海邊の早秋 氏古

早秋

早秋の早秋 餘文子

新秋露

新秋露の早秋 善繼

英昌

英昌の早秋 真具

善苗

善苗の早秋 之翰

季子文

季子文の早秋

秋の露

秋の露の早秋

残暑

残暑の早秋 守年

七夕

七夕の早秋 大海

安恭

安恭の早秋

真臣

真臣の早秋

御細

御細の早秋

氏古

氏古の早秋

八重子

八重子の早秋

春時

春時の早秋

大海

大海の早秋

二星

二星の早秋

契久

契久の早秋

成齋

成齋の早秋

鳥鶴

鳥鶴の早秋

草花

草花の早秋

七夕衣

七夕衣の早秋

待七夕

待七夕の早秋

待七夕

待七夕の早秋

待七夕

待七夕の早秋

待七夕

待七夕の早秋

織女 惜別

桐櫛のこころの袖やとてはるるをばとて 翌の川波 正容

七夕別

のりまじちやをさそひきたるたをりこふまの夜宿るがづ 清之

七夕 前夜

つゞけのまはれしつゝも能くさきて 成るるの川 一 雅

七夕 後朝

いたつゝも身をたもたむ 桐櫛のほろろとてまのまのまを 知春

閏月 七夕

やまのけしきけりてはすまふまふまはるるまきん 大海

相模 節會

あつた人のあまきまの燈古のまよふつゝも 公 満

靈 祭

こゝろのけしきはあのかまへん 風も秋もさるの秋は 季文

廿秋

まのうさまをんうゝあて秋風のあつゝも 氏古

廿秋 風

こゝろの秋のまよふのけしきも 御網

廿秋 告秋

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 經 巖

廿秋 鶯風

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 大海

廿秋

秋の中も袖ふりつゝも 嘆は秋のまよふの秋を 直子

廿秋

人あつたあまのまよふの秋を秋のまよふの秋を 良詮

廿秋

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 知方

廿秋

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 真臣

廿秋 露

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 醜雄

廿秋

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 大海

廿秋 移水

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 經 巖

廿秋

あまのこゝろのまよふの秋を秋のまよふの秋を 氏古

行路菽

菽満野亭

風前菽

久豊

折菽

薄

薄似袖

月前薄

閑庭芒

薄靡風

尾花

女郎花

古郷

女郎花

荊

荊

秋

草花

花

花

花

菽のよきおと情をいふわらわの及またその村もたまた

くもててるるたまたたけつをたあつてつれもやうの菽

秋風よ菽のまをれを吹きてつれをのこすやまたよけれん

久豊

まをらうつて一柱をよめたおのけつれをいふ菽

あまきまをらうつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

まをらうつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

世の人をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

菽をいふつていふかきまのよき菽何の菽もつれをいふ

久豊

勝圓

真臣

忠綱

廣臣

智融

爲一

千村

政村

湛然

橋住

一雅

宥龍

真臣

道寧

高文

氏古

餘文子

安茶

安茶

安茶

草花
色々

世にいらまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて
秋のまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

通徳
御網

朝草花

その月のあつてまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

氏古

草花露

露のあつてまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

さく子

野花
留客

少花あつてまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

足穂

古郷
草花

修持のあつてまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

宥龍

朝顔

朝顔のあつてまよふてあつ虫のやうに花後してつらかりはまよふて

寛敬

定安

定昌

可景

真臣

御網

勝継

大空

足穂

醜雄

為子

通徳

橋住

とら子

露

露半凝

野草露

田上露

閑居露

月前露

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 鏡善

虫

あうけうの海の子存の上の月をくけし 義嗣

暁

あけの光の枝の影をまきし唐が神の月 御細

深夜虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 久隆

枕辺虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 勝圓

尋声虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 大海

虫声幽

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 真臣

虫声

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 真具

非一

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 橋住

聞

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 高文

虫聲遍

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 廣臣

雨中虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 資胤

月下

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 橋住

虫声

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 足穂

閑居虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 良紀

旅宿虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 中み子

野辺虫

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 廣瀬子

一

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月 雅

あやふくもはるもく神の衣をまきし唐が神の月

むのまろふ袖まふぬまろふむのまろふのまろふ

組子

縮妻

いもろのまろふのむのまろふのまろふのまろふのまろふ

日孝

田稻妻

秋の田あらしねたままらねる稲妻のまろふのまろふのまろふ

宥龍

秋風

すまろふまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

清之

秋風

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

為一

秋嵐

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

氏古

野分

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

橋住

澤嶋

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

安茶

鶉

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

智融

鶉

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

足總

鶉

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

日孝

古卿鶉

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

経巖

小鷹鶉

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

茂枝

西翁

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

宥龍

社頭霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

義信

川霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

好敦

海辺霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

真臣

開霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

大海

霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

為子

霧

秋のまろふのまろふのまろふのまろふのまろふのまろふ

橋住

行路霧 先きう一物のりわととあるふり考まふ秋のさきさき 茂枝

山霧 云林吹ねの風や 経あるんきりや水ゆきまののりし 知春

名所霧 名所霧はねのふらふら 秋風よまを吹くもわりののりし 盛次

雁 へねとすのよつとくも 秋の風よまを吹くもわりののりし 芳松女

雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 道寧

雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 隆央

雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 御網

初雁 大のふらふらと 秋の風よまを吹くもわりののりし 恆長

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 殖茂

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 真具

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 大海

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 真臣

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 直幹

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 足穂

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 千苗

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 守年

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 経農

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 柳子

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 長恆

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

初雁 けりしはのまののりし 秋の風よまを吹くもわりののりし 義忠

之翰
 湛然
 真臣
 廣臣
 恆長
 藝海
 春時
 月出山
 山月
 初昇
 雲間月
 賞月
 月前情

出月 月出山 山月 初昇 雲間月 賞月 月前情
 安茶 橋住 足穂 大海 濱子 為子 真臣 安興 橋住

名河月

芥田川をまはす林の森は深きもあつて其月の影は 道可

十五夜

月はしづかに照らす川よ流るる水は 智 猷

天竺の玉の光をたたくは月影の如く 足 穂

月をみればその影もついでにやまの影も 直 臣

こゝろをこゝろに照らす月影の如く 廣 臣

傳 月

月の光をこゝろに照らす月影の如く 橋 住

揚明月

月の光をこゝろに照らす月影の如く 柳 子

八月十五夜

月の光をこゝろに照らす月影の如く 廣 臣

十五夜

月の光をこゝろに照らす月影の如く 御 細

八月十五夜の月影の如く照らす月影の如く
月の光をこゝろに照らす月影の如く照らす月影の如く
月の光をこゝろに照らす月影の如く照らす月影の如く

十六夜

月の光をこゝろに照らす月影の如く 春 時

十七夜

月の光をこゝろに照らす月影の如く 大 海

月の光をこゝろに照らす月影の如く 正 容

九月

月の光をこゝろに照らす月影の如く 宗 徳

月の光をこゝろに照らす月影の如く 勝 長

雨後月

月の光をこゝろに照らす月影の如く 廣 臣

河 月

月の光をこゝろに照らす月影の如く 八 里 子

山川の海流は月を舟とせしむればはるかに遠く

舟中月 くらげの藤のつるもまきまきして月影の後に又舟 真臣

先人 対月 山のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 御網

對月 志 又とてうらなひの心を志のまきまきして月影を舟とせしむればはるかに遠く ため子

幽谷月 こももたれはあらうらなひの心を志のまきまきして月影を舟とせしむればはるかに遠く 醜雄

樵父 帰月 舟人のつるくもたれはあらうらなひの心を志のまきまきして月影を舟とせしむればはるかに遠く 資休

山家月 人よぬは山に月影の舟とせしむればはるかに遠く 道可

曉月 山に物もたれはあらうらなひの心を志のまきまきして月影を舟とせしむればはるかに遠く 殖茂

海上 曉月 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 安茶

月漸傾 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 道可

惜月 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 醜雄

山殘月 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 英昌

知春 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 知春

高文 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 高文

鏡善 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 鏡善

醜雄 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 醜雄

英昌 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 英昌

知春 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 知春

高文 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 高文

長共 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 長共

大空 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 大空

師行 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 師行

真臣 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 真臣

鹿 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 鹿

真臣 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 真臣

師行 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 師行

大空 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 大空

長共 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 長共

醜雄 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 醜雄

英昌 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 英昌

知春 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 知春

高文 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 高文

鏡善 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 鏡善

醜雄 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 醜雄

英昌 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 英昌

知春 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 知春

高文 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 高文

長共 舟のまに今もまきまき月影を舟とせしむればはるかに遠く 長共

清速

有 成

聞 鹿 好 敷

旅 宿 橋 住

夕 鹿 ため 不

暮 山 鹿 真 臣

原 鹿 為 子

霧 中 鹿 足 穂

月 前 鹿 と み 子

廣 せる

山にの鹿は

義 雄

曉 鹿 久 雄

持 衣 恒 長

祐 一

ま ち

持 衣 幽 大 海

遠 衣 之 幹

月 下 直 子

深 夜 政 澄

里持衣

きよきよきよのきよきよ... 小娘結衣... 義嗣

山家

おのゝの... 橋住

九月

九月の梅本唐花... 正明

菊

あきあきの... 久隆

裁菊

あきあきの... 氏古

菊久

あきあきの... 氏古

露

あきあきの... 資胤

禁中菊

あきあきの... 直子

水辺菊

あきあきの... 鏡善

月前菊

あきあきの... 足穂

安茶
ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし
秋老ていふはうらやまのこころはけし

橋住
ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

閑庭菊 英昌

世のついでにふまきとていふはゆきよのこころはけし

節後菊 高文

ついでにふまきとていふはゆきよのこころはけし

折菊 善繼

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

一本のふまきとていふはゆきよのこころはけし

長央

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

友愛

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

長恆

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

真臣

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

醜雄

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

治満

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

助之

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

忠綱

ふまきののちのふまきとていふはゆきよのこころはけし

名可 紅葉

月前 紅葉

雨後 紅葉

夕紅葉

海 紅辺 秋の風をよみはるるをいつらにけしめたるのほろろとぞ
茂枝

河上 紅葉 六井川風を吹かす舟の棹のまのまのほろろとぞ
清速

紅葉 交松 きよのまのこけりてんさうりしゆの松もほろろとぞ
足穂

林中 紅葉 葉のけりしゆのまのほろろとぞ
為一

山 紅葉 山に今もさうさうのほろろとぞ
竹子

山嶺上 紅葉 秋のけりしゆのまのほろろとぞ
橋住

葛 葉のまのほろろとぞ
菱毅

九月さうらふ松園大木にゆきこぞ
祐賢

九月さうらふ松園大木にゆきこぞ
重喜

野外 秋送別 さうらふ松園大木にゆきこぞ
安茶

秋遠情 秋のまのほろろとぞ
橋住

秋雨 秋のまのほろろとぞ
為子

秋水 秋のまのほろろとぞ
嘉吉

秋夕 秋のまのほろろとぞ
長央

野辺 秋のまのほろろとぞ
信為

海辺 秋夕 秋のまのほろろとぞ
柳綱

秋夕 秋のまのほろろとぞ
信為

秋夕 秋のまのほろろとぞ
柳綱

秋夕 秋のまのほろろとぞ
信為

秋夕 秋のまのほろろとぞ
柳綱

秋野 望つ〜むらさきの秋の蝶もき〜も存もよもい〜 真盛

秋山家 けはらとまうり秋の松風もは世の秋のやつれぬる 重好

秋の山ふり 山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり ため子

秋田 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 安茶

秋田風 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 嘉吉

開居秋 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 義忠

秋鳥 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 大潔

秋蝶 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 真臣

秋蝶 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 長容

秋蝶 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 長央

惜秋 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 安興

暮秋 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 良詮

山家 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 義信

名所 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 知方

暮秋 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 長行

紅葉 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 日孝

九月盡 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 善継

九月盡 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 道寧

九月盡 秋田川〜山家のまほのいろの秋のき〜も存もよもい〜 けはらとまうり 道寧

残菊

まのやうに花を散れどよそにわらわをまきし南無

利茶

月嬰

秋のいろのなごしをまきし一葉のこゝろに白雲のてし

大海

残紅葉

まのやうに花を散れどよそにわらわをまきし南無

一雅

紅葉

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

柳子

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

義忠

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

義信

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

通徳

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

日孝

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

長次

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

真意

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

資胤

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

祐一

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

大海

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

大

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

嘉吉

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

足穂

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

橋住

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

柳子

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

静満

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

時雨

あつと一葉の枝をまきしにわらわもどは秋のこゝろ

助之

羅中時雨

かひもよきやあまのついでにふりし水の布山 御網

旅宿時雨

あまのついでに法小名花葉も定ぬぬお花時雨代 橋住

閑居時雨

ついでにたまたまあまの風の吹つけのあまのついでに 為子

田家時雨

あまのついでに川の水のうらみもあまのついでに 長央

渡時雨

舟の川舟のついでに水もあまのついでに 足穂

原時雨

あまのついでに風の吹つけのあまのついでに 清之

山時雨

あまのついでに山の水のあまのついでに 義忠

月前時雨

あまのついでに月のあまのついでに 真風

落葉

あまのついでに葉のあまのついでに 真臣

あまのついでに葉のあまのついでに 清成

あまのついでに葉のあまのついでに 廣瀬子

あまのついでに葉のあまのついでに 之翰

あまのついでに葉のあまのついでに ため子

あまのついでに葉のあまのついでに 安茶

あまのついでに葉のあまのついでに 英昌

あまのついでに葉のあまのついでに 隆央

あまのついでに葉のあまのついでに 季文

あまのついでに葉のあまのついでに 喜貫

あまのついでに葉のあまのついでに 大濤

夜落葉

月前落葉

落葉深

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 為一

落葉霜

かきこもるのちかちかしくして落ちた霜もかたむけたり 久隆

閑庭

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 久隆

谷落葉

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 橋往

水邊

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 通徳

海辺

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 之周

風

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 善苗

森風

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 有成

氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 資胤

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 抄茶

初氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 真臣

氷初結

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 善継

薄氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 寛敬

川氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 佳昌

田氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 富子

若岡氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 大海

若岡氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 長行

若岡氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 一孝

若岡氷

のちかちかしくして落ちた葉もかたむけたり 足穂

あつたのうらなひ

高文

屋上霜 真臣

橋上霜 通徳

宥龍

橋住

松上霜 良紀

竹霜 為一

寒艸霜 若げ

真意

霜埋 落葉

大海

閑庭霜 勝圓

樵路霜 廣臣

一夜霜 千苗

寒艸 寛敬

良詮

寒艸凡 茂枝

閑寒艸 正容

野寒草 長恆

八重子

寒 芦

まろつゝ二村まのむらさきをまらつゝ風をまらつゝ
うねりもをまらつゝにぬらふ風もほしきまらつゝ

善 繼

湖 上
寒 芦

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

清 成

冬 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

氏 古

冬 月
浮 水

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

季 文

河 冬 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

安 茶

雨 後
冬 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

好 教

寒 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

大 海

社 頭
寒 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

清 成

千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

大 海

海 辺
千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

足 穂

浦 千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

長 央

社 頭
寒 月

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

長 央

千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

足 穂

海 辺
千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

長 央

浦 千 鳥

あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは
あふみのあふみはあふみはあふみはあふみはあふみは

長 央

霰如玉

あんな方の入るもむの社やもさしひらね下れたおかし

一 雅

篠・霰

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

好 敦

屋上霰

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

知 春

行路霰

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

祥 庵

滝辺霰

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

御 細

狩場霰

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

千 森

夕鷹狩

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

橋 住

網 代

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

為 子

炭 竈

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

保 信

秀 年

長 央

真 臣

宥 龍

經 巖

大 海

直 子

嶺 出炭竈

雲 中 炭竈

あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし
あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし
あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし
あまのまをたのむもさしひらね下れたおかし

浅雪

浅き雪はぬくもりの春を告ぐくわゆる雪のやうな好なる秋の色に

清海

暁雪

おきりのけりぬる暁はききもふ風はぬくもりの色に

大海

朝雪

あさゆきとあつたむすふ雪はぬくもりの色に

為子

朝雪はぬくもりの色に

安茶

夕雪

ゆふゆきの雪はぬくもりの色に

廣臣

夜雪

よるゆきの雪はぬくもりの色に

嘉吉

深夜雪

よるゆきの雪はぬくもりの色に

英昌

雪兆望

ゆきあはれぬくもりの色に

政寛

雪中

ゆきの中はぬくもりの色に

好古

市中雪

まちの雪はぬくもりの色に

餘文子

驛路雪

えきじの雪はぬくもりの色に

御網

雪色紅

ゆきいろはにぬくもりの色に

鏡善

山雪

やまの雪はぬくもりの色に

長行

遠山雪

とほ山雪はぬくもりの色に

真臣

朝望

あさゆきの雪はぬくもりの色に

橋住

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

山望

やまの雪はぬくもりの色に

大海

樵路雪

はまのりまのり 柳の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 盛次

山家雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 貞意

山家 朝雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 茂枝

川 雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 智融

船中雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 重備

海上雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 政寛

關路雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 長行

關路 朝雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 大海

田家雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 正信

閑居雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 濟休

古郷雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 春時

樹上雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 御綱

松 雪

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 大海

雪中竹

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 為一

雪中鳥

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 將興

雪中風

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 善繼

雪中風

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 英昌

雪中風

雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 雪の雪の 若け子

政寛
 大海
 橋住
 義忠
 御綱
 大海
 受茂
 英昌
 廣子

曉爐火

爐火

開中
 爐中
 寒夜
 埋火
 冬暖
 冬天象
 冬地儀
 冬風
 冬嵐
 冬朝
 冬夕
 冬夜

好叡
 祐賢
 殖茂
 清速
 公中
 ためみ
 春時
 とみ子
 義繼
 茂枝

冬夜
書讀

ふさふさ雪の降る夜
八重子

冬雨

風雪がふりつる
好古

冬山家

谷川水かきの橋を渡る
大空

冬野

雪の野にうららかな
秀年

冬社頭

雪の社頭に
安興

閑居冬

こけの雪に
ためふ

冬植物

ふさふさ雪の
一雅

冬木

枯木に
大海

冬舟

雪川に
清成

冬鳥

枯木に
春

冬獸

雪の
盛次

冬虫

雪の
餘文子

<

雪の
央乘

雪の
柳子

雪の

雪の
安茶

神樂

雪の
千村

夜神樂

月夜に花散るをよみてかへてかきく花よもあはれはあり
とくうとく林のつれなきはよりのまぢぬ飛入るゝかたき
真臣

早梅

人の心も花散るのむすしよの村々の花散れりあはれ
まはるるあはれしよの村々の花散れりあはれ
真意

花よもあはれしよの村々の花散れりあはれ
花よもあはれしよの村々の花散れりあはれ
鏡
善
富子
秋海

年内鶯

年杪
似春

さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
政寛

春待

さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
橋住

歳暮

さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
義忠

さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
さうらうさうらうさうらうさうらうさうらうさうらう
一孝
日孝
良詮
為子
大海
真臣

老少
送年

縁角の目一多教の丁まを老たふりりくねとけん 高文

開居
歳暮

のまはばはば母のあしわ年の老はもさねあうまなる 喜貫

歳暮雪

清中へ信まふくはゆきんくのあはれをり書きた 政寛

歳暮霰

さあてのわたるもおもひよきなりまの路は見えん 廣臣

歳暮市

ひらきわたる年のたきばさうりあぬ教のまは 師行

歳暮牝

こゝろをねて牛よこさるるの市の路はきり 善継

歳暮梅

らうつたの梅のあふの教にまはのききのはるまは 宥龍

まらぬまを清の中へおもひよきなりまの路は見えん 貞意

歳暮夜

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 安茶

除夜

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 御網

除夜管

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 久隆

除夜鐘

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 清之

除夜鐘

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 安茶

除夜鐘

あまのまをねてわりのるるの年の路はきり 道可

史記卷之...

